

かえれば、
かわる！

LIFE SHIFT
The new meaning of "hope".

岐阜県知事選候補者

え さ き

江崎よしひで

esaki-yoshihide.com

かえれば、かわる! かえなきゃ、かわらない!

LIFE SHIFT
The new meaning of "hope".

人生100年時代の
県政戦略

我が決意。

岐阜県の未来を輝かせたいという思い、それが挑戦へのエネルギー

54年ぶりとなる保守分裂選挙。「4年後ではなく、何故今、知事になろうと決意したのか?」と問われることが少なくありません。

私は岐阜県の旧山県郡美山町に生まれ、子どもの頃から「社会の役に立つ存在になれ」と言われてきました。小学校や中学校の時には、「将来は医者になって、病気に苦しむ世界の人々を救うのだ」と考えていました。しかし、高校を卒業する頃には、世の中の不条理に苦しむ人を救う「社会の医者」になりたいと思うようになり、国家公務員の道を選びました。

私はこれまで、経済産業省や厚生労働省、内閣府において、この国の未来を考える仕事に携わると同時にコロナ対策にも直接関与してきました。社会が大きな困難に直面している今こそ社会の医者としての役割を果たすべき時です。そのためには、人々の生活により近く、機動的に政策を企画し実行できる県こそそれにふさわしい場所だと思い、知事を志す決意をしたのです。

「二つの命」

今、私たちの社会は2つの大きな不安に包まれています。一つは新型コロナウイルスに対する不安、もう一つは将来に対する不安です。10月には、新型コロナウイルスで亡くなられた方の総数が二千名を超えましたが、たったひと月の間に自ら命を絶たれた

方の数がこれを上回りました。新型コロナウイルスの感染によって奪われる“いのち”、経済的困窮や将来への不安から自ら断たれてしまう“いのち”、こうした二つの“いのち”を守ること、それこそが、今「社会の医者」に求められる役割です。

また、同時に私たちの社会は「人生100年時代」を迎えつつあります。新型コロナウイルスがもたらした新たな日常の先に、人生100年時代に相応しい働きかた、学び方、生活様式を実現し、希望に満ちた未来を創ること。「社会の医者」が果たすべきもう一つの大切な役割です。

国において培ってきた知識、経験、ネットワークを活かし、岐阜県庁時代に築いた県職員との信頼の下、新型コロナウイルスに関する正しい知識を普及し、技術を用いた予防体制・医療体制の整備を図ることで、対策の空白を生むことなく、収束に向けたより着実な取り組みを行い、輝かしい岐阜県の未来、私たちの人生の「幸せのかたち」を創り上げてまいります。

江崎 禎英

56歳



“いのち”
を繋ぐ使命。